

木材価格市況標準相場

令和6年11月5日

東京木材問屋協同組合
価格市況調査委員会

○今月の価格動向

(1) 値下げ品目		12
平	角	2
北洋材・北欧材		1
合	板	9

○今月の市況動向

10月の商況は、先月に引き続き低調な報告が多く、秋需を感じさせる内容では無かったが、「少しずつ荷動きの回復が見られる」「問い合わせは増えた」などの声も聞かれた。

(国産材) 秋田の製材工場の稼働率は7割程度だが、値下げ要請には応じていない。造作材の動きが良く、構造材の悪い状況は続いているが、夏場に在庫を減らした製材所では、伐り旬の良い丸太の手当てを積極的に行っていることから、価格は引き締まった地域もあるとの報告もあった。

(輸入材) 平角においては、国内最大手メーカーが米松KD材の価格を9月に続き、再び値下げのアナウンス。米材原木価格は高値で推移しているとのこと。北欧材では、東京木材埠頭の在庫量は大幅に減少したが、まだ多い水準との報告。南洋材では集成材の動きは良かったが、11月は為替、契約単価の上昇によって厳しい状況が予想される。

(合板) 全品値下げ品目となった。国内針葉樹合板では、減産継続によって需給バランスの回復に努めているが、値下がり止められない状況は続いている。流通は荷動きが多少出てきた感じであったが、業界紙一面に安値価格が掲載されたことで、荷動きは鈍り、当用買いが継続すると思われる。9月の生産量は20.7万 m^3 ・出荷量は20.6万 m^3 となり、在庫量は再び増加に転じたとの報告であった。